

南丹保健所管内の感染症発生動向調査による週報

(急性呼吸器感染症定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

第 12 週 2026 年 3 月 16 日 ~ 3 月 22 日

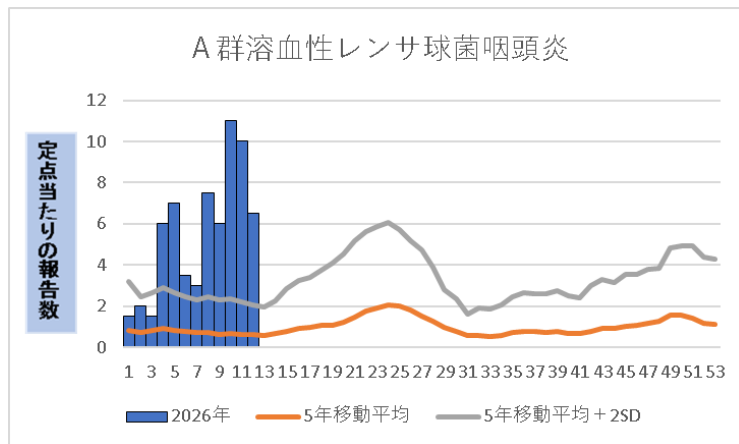
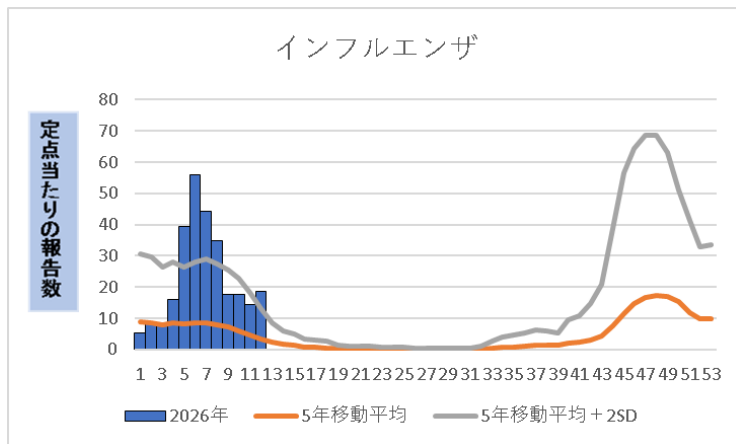
今週のコメント

南丹保健所管内では、インフルエンザとA群溶血性レンサ球菌咽頭炎が警報レベル継続中です。
京都府内では、インフルエンザが警報レベル 継続中です。

2026 年第 12 週の報告です。

- インフルエンザの定点当たりの報告数は南丹 18.5(前週 14.25)、京都府 10.89(前週 11.91)となっています。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点あたり報告数は、南丹 6.50(前週 10.00)、京都府 3.50(前週 4.68)となっています。
- 感染性胃腸炎の定点あたり報告数は、南丹 3.50(前週 3.00)、京都府 4.26(前週 4.48)となっています。

今週のグラフ (下記のグラフは管内上位2位疾患のグラフを掲載しています)



※横軸は週数 縦軸は定点あたりの報告数を示しています

- 『5年移動平均』は、過去5年間の平均値の変化を表しています。
- 『5年移動平均+2SD』は、過去5年間のデータのばらつきを考慮した上限を示しており、データの約95%がこの線より下に収まるとされる基準です。

令和8年度から妊娠28週～38週の妊婦の方を対象に、RSウイルス感染症に対する母子免疫ワクチンの定期接種が開始となります。

RSウイルスは乳幼児や高齢者に呼吸器症状を起こすウイルスで、生後1歳までに50%以上、2歳までにほぼ全員が一度は感染します。潜伏期間は2～8日で、発熱、鼻水、咳がみられ、多くは軽症ですが、約3割の乳幼児では喘鳴や呼吸困難、細気管支炎など重症化することがあります。2010年代には2歳未満で年間12万～18万人が診断され、3万～5万人が入院し、約7%が人工換気を要しました。

免疫が未熟な乳児を守る方法として、妊婦接種により抗体を胎児へ移行させる母子免疫ワクチンがあり、令和8年度より妊婦に対する定期接種が開始となります。

○対象者

接種時点で、妊娠28週0日から36週6日までの妊婦の方

○接種スケジュール

妊娠28週0日から36週6日までの間に1回接種

本ワクチン接種について、詳しくはお住まいの市町村又はかかりつけ医にご相談ください。

○RSVワクチンについての詳細はこちらをご覧ください

[RSウイルスワクチン | 厚生労働省](#)、[RSウイルス感染症 / 京都府感染症情報センター](#)

